



そっと覗いて、そっと治す 体に優しい内視鏡治療

内視鏡部は、京大病院の消化管、胆膵疾患および呼吸器疾患の内視鏡的診断と治療のすべてを担当している。消化管内視鏡の領域では、消化器内科の全面協力のもと、スクリーニングの上部・下部消化管内視鏡検査に加え、早期消化管がん・消化管狭窄・炎症性腸疾患・膵炎・胆管結石・悪性胆膵腫瘍などを対象に内視鏡的腫瘍切除術、バルーン拡張術、ドレナージ術、ステント留置術などの治療内視鏡を担当している。さらに吐下血や急性腹痛症に対する緊急内視鏡検査は、年間を通して24時間体制で対応している。また、気管支鏡部門では、呼吸器内科・外科スタッフにより肺がん、慢性呼吸器疾患を中心に気管支鏡を用いた診断・治療を行っている。

代表的診療対象疾患

- I. 良性疾患 慢性呼吸器疾患、食道静脈瘤、逆流性食道炎、食道アカラシア、胃十二指腸潰瘍、ヘリコバクター胃炎、胃ポリープ、十二指腸ポリープ、小腸ポリープ、小腸血管拡張症、胆道結石(胆嚢結石、総胆管結石、肝内結石)、胆管炎、胆嚢炎、急性膵炎、慢性膵炎、粘液産生膵腫瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ペーチエット病、大腸ポリープ、小腸血管拡張症
- II. 悪性疾患 咽喉頭がん、肺がん、食道がん、胃がん、十二指腸がん、十二指腸乳頭部がん、胆管がん、胆嚢がん、膵がん、大腸がん、小腸がん、消化管悪性リンパ腫、消化管間質腫瘍(GIST)

業務内容の特徴と実績

高度・専門化する内視鏡検査や治療に対応

中央診療部門であり、独自の入院ベッドは有していないが、消化器内科スタッフと協力し、主として午前は上部消化管内視鏡検査、午後は下部消化管内視鏡検査を行っている。スクリーニング検査と並行して、超音波内視鏡、ダブルバルーン小腸内視鏡、内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)などの特殊検査、および早期消化管がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術や胆道ドレナージ術を中心に種々の治療内視鏡を行っており、診療内容は近年ますます高度・専門化している。

2013年度の診療実績は内視鏡検査総数は10,687件(上部消化管内視鏡6,141件、下部内視鏡2,675件、小腸内視鏡76件、ERCP1,206件、気管支鏡589件)であり、増加の一途をたどっている。

移植医療の一翼を担う

一方で、生体肝移植前後の食道胃静脈瘤に対する治療や生体小腸移植後の移植小腸の内視鏡的なサーベイランスなど、京大病院の特徴である移植医療の一翼を担っている。

咽喉頭領域への貢献

またNBI(狭帯域光)観察が上部消化管内視鏡検査上でルーチン化されたことにより、咽喉頭領域の表在性のがんの発見が増え、咽喉頭がんの全身麻酔下での内視鏡的切除が増加している。

専門医教育

シミュレーターによる内視鏡操作訓練を実施

大学病院の果たすべき重要な社会的責務として、専門医の教育養成が挙げられる。内視鏡検査は患者さんにある程度苦痛を強いる検査法であるため、安全かつ効率的に実践する必要があり、そのための教育はきわめて重要である。2012年3月には京都府の好意でシンピオニクス社の内視鏡教育訓練用シミュレーター(GIメンター)が京大病院に設置された。このシステムはきわめて生体に近い画像を見ながら、本番さながらのトレーニングを可能にするバーチャルリアリティ訓練ツールである。

これにより研修医やポリクリ学生など初心者が基本的な内視鏡操作のトレーニングを楽しみながら、効率良く行えるようになった。さらに超音波内視鏡やERCPのシミュレーションプログラムも搭載されており、内視鏡専門医の技術向上にも役立つものと期待されている。